

## IV 研究の成果と課題

本研究テーマを掲げて3年目となった本年度は、子どもたちを取り巻く「他」の中の「自然」に着目し研究を進めてきた。

「自然」とのかかわりの中で自分らしさを発揮できる子どもたちを育てるためには、保育者としてどのような援助が大切か、またどのような環境構成を工夫していけばよいかを追究してきた。

研究の成果と課題について、以下にまとめてみたい。

### 〈 成果 〉

- 実態調査を実施することによって、身近な自然環境の減少が本園の家庭環境にも当てはまっていることが改めて確認でき、園内外で子どもたちの自然とのかかわりを充実させることや、子どもたちが体験したことを家庭へも発信することの大切さを再認識することができた。
- 研究保育・保育研究を3クラス連続で実施したことで、子どもたちが同じ「自然」とかかわっていながらも、かかわり方が年齢によって様々で、年少での経験が年中へ、年中での経験が年長へとつながり、積み重なっていることが分かり、保育者として連続性を意識して保育に当たることの大切さを実感できた。
- 期ごとに事例を収集することで、その期ならではの「自然」とのかかわりや自然事象をまとめることができた。また、事例を分析する中で、保育者の援助の在り方、環境構成について様々な視点から捉えることができた。
- 抽出児の継続的記録を行うことで、子どもたちの自分らしさがどのように広がっていくのかを、1～3年の幼稚園生活全体で追うことができ、様々な「他」とのかかわりを通して子どもたちが様々な体験を積み重ねて、自分らしさを発揮していく過程をまとめることができた。
- 各年齢の姿を整理する中で、年少児、年中児、年長児の姿が変容していく過程が見えてきて、それぞれの年齢の特徴をまとめることができた。(P84, 86, 88)
- 子どもたちが自分らしさを発揮するための「保育者としての援助の在り方」, 「環境構成の工夫・改善」についてのポイントを年齢ごとにまとめることができた。(P85, 87, 89)
- 研究の成果を生かし、教育課程・指導計画作成に努めることができた。

### 〈 課題 〉

- 子どもたちにかかわってほしい「自然」を今後も引き続き探っていき、意図的、計画的に構成していきたい。
- 保育者自らが感性を豊かに保ち、子どもの目線で「自然」の素晴らしさに感動できる保育者でありたい。
- 今回見えた体験の積み重ねについて、園生活全体でさらに具体的に、発達や学びの連続性について今後も追究していきたい。

「他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成」のテーマを掲げ、平成19年度から3か年計画で研究をスタートさせ、子どもたちがかかわる「他」を「人」「もの」「自然」に分けて研究を進めてきた。研究を進める中で、改めて実感できたことは、子どもたちの「他」とのかかわりは一つに留まることはなく、自分の好きな「もの」とかかわっている中でも「人」（友だちや保育者）の存在があり、「自然」があるということである。

私たちは、子どもたちが自分らしさを発揮できるように、子どもたちの周りにある「他」とのかかわりの中で、どのような援助をしたらよいのか、どのような環境を構成したらよいのかを探ってきた。その中で保育者として子どもたちを取り巻く「他」を、これまでより意識して保育に当たることができたように思う。

直接的な体験が少なくなってきたと言われる中で、私たちは、子どもたちが自分らしさを発揮しながら成長していけるよう、今後も様々な「他」とのよりよいかかわりを大切に、追究していきたい。

